裁判員経験者の意見交換会議事概要

仙台地方裁判所

日　　時	平成３０年６月１３日（水）午後２時２０分～午後４時２０分	
場　　所	仙台地方裁判所第２会議室（６階）	
出席者等	司　会　者	加　藤　　亮（仙台地裁第１刑事部総括判事）
	裁　判　官	江　口　和　伸（仙台地裁第２刑事部総括判事）
	検　察　官	栗　原　健　一（仙台地検検察官）
	弁　護　士	内ヶ崎　裕　之（仙台弁護士会所属）
	裁判員経験者	８人（以下「１番」等と表記　）
	報 道 機 関	２人（河北新報社，読売新聞社）

１．本意見交換会の趣旨説明等

司会者

ただいまから，裁判員経験者の意見交換会を始めます。本日の司会を務めます仙台地方裁判所第１刑事部の加藤と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は，お忙しい中，お集まりいただきありがとうございます。裁判員制度も，施行から１０年目を迎えました。県民の方々の高い意識と誠実な姿勢に支えられ，概ね安定的に運営されていると認識しております。この間，当庁におきましても，１１００人を超える裁判員，補充裁判員の方々に御参加いただきました。その中で，本日は比較的最近の裁判員裁判に参加されました８人の裁判員経験者の方をお招きしております。

皆様の裁判員裁判を経験されての様々な御意見や御感想は，今後の裁判員裁判の運用をより良いものとするためのものとなります。我々法曹三者としましては，皆様の意見を受け止めて，共有し，今後の運用改善に生かしていきたいと考えております。また，皆様の意見は，これから裁判員裁判に参加される方にとっても，とても参考となり，御参加いただくための力強い後押しになると思われますので，率直な御意見，御感想をお聞かせいただきたいと考えております。

本日の意見交換会の話題事項は大きく分けて三つございます。一つ目は審理の分かりやすさについて，二つ目は評議，判決についての感想や意見，三つ目は裁判員を務める上での負担感についてです。本日は，司会進行上堅苦しいお話をしますが，ざっくばらんに和気あいあいと皆様からお話を頂ければと考えておりますのでよろしくお願いします。

２．自己紹介

司会者

この意見交換会には，検察庁，弁護士会，裁判所から一人ずつ法曹関係者が参加しております。それぞれのお立場で，皆様からどのような御意見，御感想を頂けるのか大きな関心をお持ちのことと思います。ここで，まず簡単に自己紹介をお願いします。

栗原検察官

仙台地検の公判部の検事をやっています。栗原と申します。よろしくお願いします。検察官になってから１６年になりますが，ここ８年間は裁判を担当しております。裁判員裁判もいくつか経験しております。本日は，皆様から御意見をいただき今後の主張・立証に生かしていきたいと思っておりますので，よろしくお願いします。

内ヶ崎弁護士

はじめまして。仙台弁護士会所属の弁護士内ヶ崎裕之と申します。私は，今回初めて意見交換会に参加します。本日は，私が初めて担当した裁判員裁判も話題に取り上げられるということですので，皆様から忌憚のない御意見をいただき，私個人として，また，仙台弁護士会としても今後の弁護活動に生かしていきたいと思いますのでどうぞよろしくお願いします。

江口裁判官

仙台地方裁判所第２刑事部の裁判官の江口と申します。本日は，皆様の御意見を頂き，今後の裁判員裁判をもっと良くしていきたいと思いますので，どうぞよろしくお願いします。

司会者

どうもありがとうございました。

それでは，始めに皆様が参加された裁判員裁判を御紹介しつつ，裁判員経験者の皆様から，裁判員裁判に参加されての全般的な御感想，印象などを，お一人ずつ，簡単にお話いただきたいと思います。

それでは，１番の方ですが，昨年６月に行われた傷害致死事件でした。被害者と交際していた被告人が，被害者に対し，暴行を複数回加え，同人を脳損傷及び頸椎損傷並びに出血性ショックを主体とする外傷性ショックにより死亡させたという事案でした。この事件は，被告人に傷害致死罪が成立することについて争いはなかったが，暴行態様について争いがあったという事件でした。

裁判員の方々のアンケートによりますと，検察官の法廷での説明について，分かりやすかったという方が５人いらっしゃいました。専門家である解剖医の話も聴くといった事件であり，なかなか複雑で難しい事案だったと思いますが，参加されての御意見，御感想を簡単で結構ですので，１番の方お願いします。

１番

初めての参加でしたのでドキドキでした。参加に当たって危惧していたのは，受け身で，裁判官の方々のリードの下に，あっという間に，儀礼的に終わるのではないかと思っていたのですが，加藤部長を始め，裁判官の方々に上手にリードしていただき，参加者意識があった評議でした。皆様，参加することに抵抗感をお持ちになるかもしれませんが，非常にやりがいを感じました。

司会者

次に，２番及び３番の方ですが，お二人は同じ事件を担当されました。昨年９月に行われた殺人事件を担当されました。被告人の居室に模造刀を持って被害者が現れた。その被害者の挑戦的な言動に呼応した被告人が，居室から包丁を隠し持って，被害者と共に現場まで行き，被害者の腹部等を刺すなどして殺害したという事件でした。この事件は，いろいろ争点がございまして，①被告人に殺意はない，②被告人には正当防衛が成立する，③被告人が，睡眠薬の服用及び飲酒の影響等により心神喪失の状態にあった旨主張した事案で，この事件でも解剖医，それから精神科医の尋問が行われました。この事件を思い出していただいて，どのような御感想だったのか，あるいは，御家庭や会社の方で，それについて何か反応があったのか，何でも結構ですのでお願いします。

２番

とても複雑で，辛い裁判内容ではなかったかなと思います。判決が出てからいつまでも尾を引いていることに耐えられないという事案でした。どこかで事件まで発展しないで，もしかしたら止められるんではなかったかなと思い，最後まで尾を引いて辛い事件でした。しばらく忘れていたのですが，今日，資料を見させていただいて，やっぱり辛い重い事件であったことを思い出しました。参加しての感想は，とても分かりやすく，専門用語の説明もありましたし，参加しやすく，考えやすいアドバイスをたくさん頂いたと思っています。

３番

同じ事件の裁判員として参加しました。私は，全体の用語ですね。殺意とはどういう意味なのか，責任能力とか難しい言葉がたくさんある中で，ちょっとは聞いたことがある言葉が実際はこういう意味なんだと，間違って理解していたのがあって，その辺はすごく勉強になりました。審理中に難しい言い回しがある中，言葉がたくさん出てくるのですけれども，文字でも起こせるような言い回しになっていて，主語と述語，言葉の正しい使い方，話し方について，普段の仕事においても勉強になりました。以上です。

司会者

次に，４番の方ですが，昨年１０月に行われました現住建造物等放火未遂事件

を担当されました。被告人は，従前からり患していた広汎性発達障害を抱えて自宅に引きこもっていましたが，自殺願望と米軍に関する幻聴や妄想を抱き，その強い影響によって，焼身自殺するしかないとの衝動に駆られたため，母親と同居する自宅の自室に灯油をまいて放火したが，その目的を遂げなかったという放火未遂の事件でした。責任能力が争われて，精神科医の尋問が行われたようです。アンケートによりますと，法廷での説明での分かりやすさは，検察官について６人の方全員が分かりやすかったと，一方，弁護人については５人の方が分かりにくかったという回答結果になっています。

４番

私は，選任期日のときに，今回担当するのが放火未遂事件だと分かり，すごく難しい事件ではないのかなと,そのとき裁判の日数が５日間の日程ということで,そんなに日数がいるのかなというのが正直な意見で，その時点では，被告人に発達障害があるということを知らなかったので，実際に参加してみると，審理が進み，証拠調べなどで精神科医のお話を聴いていく中で，この事件を考えるには必要な日数だったんだなと実感しました。

検察官が要旨メモを前もって渡してくれて，それに沿って説明してくれたのですごく検察官の方は分かりやすいものでした。弁護人の方では心神喪失で争っていて，検察官の方が理路整然と理解しやすかったのに対し，弁護人の主張する心神喪失の内容は，なかなか納得できない場面が多く，負担に感じました。

司会者

今，負担感についてもお話が出ましたが，負担感については後ほど，お話を伺います。次に，５番の方ですが，昨年１０月に行われた殺人未遂，銃砲刀剣類所持等取締法違反事件を担当されました。元交際相手である被害者男性と別れさせられたことに納得できない被告人が，被害者を待ち伏せして，同人を刺したという事件で,胸を刺したということについて故意があったものではない,あるいは,殺意もなかったという事案で，これについては，診察医の尋問が行われました。

この事件について御意見，御感想をいただきたいと思います。

５番

私が担当した事件は殺人未遂だったので，死んだ方がいらっしゃらないということで，気も楽に臨めるかなという気持ちもあったんですけど，やっぱり，いろいろな証言を聴き，リアルな写真を見て，緊張したり，頭の中が真っ白になりそうなとき，裁判官の方たちが評議するときや，評議以外のときも話しかけてきてくれました，裁判長の方もすごくフレンドリーに話してくれて，上も下もないんだと話してくれたので，すごく評議の意見交換で意見が出ました。私も評議の中で被告の生い立ちとかいろいろなことを考えて，なんでこうなっちゃったのかという自分の私情を入れそうになったときに裁判長や裁判官の方々が，難しいんですけれども，間違った山に登ってはだ

めだよと，疑わしきは被告人の利益にとか大前提を教えていただいて，私も感情に傾いちゃだめだ，ちゃんと事実を出して合理的な疑いが入らないかということをやらなきゃならないんだということで，全然分からない私も，とても興味を持てるようになってとてもやりやすかったです。

司会者

この事件は，殺意が争われて，殺意は認めたけれども，無理心中の事案だということで，無理心中とまでは言えないのではないかということで検察官の主張が一部落ちたという事件でしたね。弁護人の法廷での説明が分かりにくかったという方は４人いらっしゃいました。検察官の説明が分かりやすかったという方は３人でした。

次に，６番の方ですが，昨年１１月に行われた強姦致傷，窃盗，強制わいせつ，迷惑行為防止条例違反，住居侵入，強姦事件を担当されました。事件は大きく分けて３件ありました。当初，事実関係は争いがなかったのですけれども，実際，審理を始めると，被告人からいろいろ主張され始めて，かなり事実関係が争われて，争点が出てきた事案でした。

この事件は，裁判員の方のアンケートでは，検察官の説明について，６人全員が分かりやすかった。弁護人の方は，３人の方が分かりやすかったという回答でした。また，事案が複雑な割には分かりやすかったという結果でした。

６番

初めて，裁判員で，参加して私自身非常に勉強になりました。私の事件は，レイプということで，被告人の年齢が，自分の子供と同い年だったものですから，考えさせられました。一つ気になったのは，判決で懲役を裁判員全員で決めたということについて，年数とか非常に長かったんですけれども，私たちの考えで，その方が長くなったり短くなったりすることについてそのときはあまり感じなかったのですが，家に帰ってからそれで良かったのかなとずっと思っておりました。また，雰囲気的には加藤裁判長とか他の裁判官の方に非常に私たちのことを持ち上げてというか，楽しい雰囲気を作っていただき，参加させていただきました。

司会者

次に７番の方ですが，犯行時少年であった殺人事件を担当されました。日頃から，同居している父親の存在が耐えられないと感じていた被告人が，父親との間で口論等となり，同人から「お前も大人なんだから，自分のしたことには責任をとってもらう」などと言われたこと等をきっかけとして，殺意をもって，同人の胸部及び背部をナイフで多数回突き刺し，多数の刺創を負わせ，同人を前記傷害に基づく失血により死亡させて殺害したという事件でした。弁護人は，被告人が公訴事実記載のとおりに父親を殺害したこと及び被告人が本件時，完全責任能力を有することを争わなかったことから，量刑が争点となりました。解剖医や精神

科医の尋問も行われた事件でした。

７番

全体的なことからいうと，我々と補充裁判員の方々のメンバーの特性もあったのでしょうけれども，非常に和気あいあいと闊達に意見がなされ，いろんな側面からこの事件について皆で意見を出して，最後に結論にたどり着いたという点では，思っていた以上にフレンドリーで取り組みやすかった期間であったなと。ただ，今もお話にあったとおり，事件そのものは，重たい事件で，被告人自体が当時未成年ということで，被告人の将来，更生の可能性も含めて，そこまで考えて結論を出さなければならないことと，親族殺人という事案で，非常に身につまされる思いで，そういう意味では心理的な負担は，決して軽いものではなかったと感じています。裁判が終わった後もいろいろ負担に思うことがあったりしたものですから，これについては，後でお話する機会もあるかなと，裁判員制度についてちょっと負担が重いかなと思うところはありました。

司会者

次に８番の方ですが，今年２月に行われた現住建造物等放火事件を担当されました。古い木造２階建共同住宅１階の可燃物が散乱する自室居室内に，少なくとも４箇所に分散して，火を放った事案でした。被告人の放火により火災が生じたことは争わなかったというものの，放火の目的が家財保険金なのかどうかということが争いになったという事件でした。

８番

今，説明がございましたように，この事件では事実関係に争いはなく，動機について検察官と弁護人が主張される中で，我々がそれをどのように判断するかという事案でした。判決を決める際に，被告人をどういうふうな量刑にするのかということで，１番の方や６番の方のお話にあったように我々，一般人というか県民の意見を出し合って，それについて裁判官の方々にまとめていただくことについて，当初考えていたよりも裁判員制度に参加しているという実感がございました。後で，負担感について出てくると思うんですけれども，重大な犯罪の中では，死傷者がいる事件ではありませんでしたので，負担については，それほど重くなかったと思いますが，日ごろ，法律が身近なところにあるということを実感し，有意義に感じました。

３．審理の分かりやすさについて

司会者

それでは，本日の一つ目の話題事項である審理の分かりやすさについて，意見交換をしていきたいと存じます。審理には，大きく分けて主張の場面と証拠調べ

の場面がありますが，まず，主張の場面について御意見を伺おうと思います。検察官，弁護人からそれぞれ冒頭陳述で，本件の争点がどんなところにあるのか，今後立証していくことのあらましが述べられたと思いますが，それが分かりやすかったかどうか御意見をお伺いしたいのですが，例えば，２番の方，３番の方，５番の方の事件では，争点が複数ありましたが，御理解いただけたでしょうか。

３番

個人的には，検察側，弁護側ともに順序立てが一緒だったので，私は分かりやすかったです。特に混乱はしなかったと記憶しています。

司会者

２番の方，３番の方の事件では，殺意，正当防衛，それから責任能力ということが争点となっていましたが，理解できましたか。

２番

争点が何なのかというのを理解するまでに，ちょっと時間がかかったかなと思っていますが，その間に説明があったり，物証を見せていただいて理解できたような気がします。

司会者

証拠調べの段階になって，段々と見えてきて，最後に論告・弁論の所でまとめて整理されたという感じでしょうか。

２番

はい。

司会者

５番の方はいかがですか。

５番

何もかも初めてでしたが，検察官は１００パーセントに近いぐらい理路整然と，順序立てて分かりやすく説明してくれたのに対して，弁護人の方は，ふわふわしていて分かりにくく，何か他のことを考えているのかな，言ったことに対して他のことをあぶりだして，そうでしょ，と言いたいのか，何か作戦でもあるのかな，と思ったりしました。精神的なものがあったというのであれば，それよりも，例えば，お医者さんや近しい人が証人に立つとかそういうことがあるかと思うのですが，それもせず，何かふわふわしたことで立証しようとしている感じを受けました。態度もあまり良くなくて，頼りない印象でした。弁護人の冒頭陳述は，長い文章で，何を言いたいのか分かりにくかったので，きちんとまとめた方が分かりやすかったと思います。

司会者

１番の方は，冒頭陳述を聞いてどこが争点なのか，証拠調べのポイントについて御理解いただけましたか。

１番

暴行の態様について，被告人は，３回しか髪の毛を引っ張っていないと言っていましたが，お部屋がすごい惨状になっていたので，嘘をついているんだろうなと思いました。思いましたが，その嘘を結局，裁判自体でははっきりできなかったので，もどかしいなと思いました。量刑に関係してくるのに，暴行の態様がはっきり分からなかったことが，自分としてはもどかしく思いました。

司会者

８番の方はどうでしたか。

８番

一番最初だったので，法廷で頂いた情報をそのまま受け取る感じでした。持ち帰って評議するときに，こう言っていたけれどもどういう意味なんだろうと思っていたことが，こういうことなのか，と後になって分かったこともあり，一番最初はよく理解できなかったと思います。

司会者

証拠調べで分かったということでしょうか。

８番

はい。

司会者

４番の方はいかがですか。

４番

検察官の説明は，時系列でまとめられていて分かりやすかったです。証拠調べも，検察官や弁護人の冒頭陳述の要旨のメモを見ながら聞いていました。

司会者

６番の方，７番の方の争点は量刑でしたが，冒頭陳述を聞いて，量刑判断のポイントは理解できましたか。６番の方はいかがですか。

６番

なかなか理解しにくかったですが，とにかく重大なことをみんなで考えて，そして決めた，という感じで終わってしまったんです。

７番

私の担当した事件は，親族殺人ということ，被害者が被告人の生い立ちに影響を与えていること，被告人が犯行時未成年だったので更生の可能性があることをどう加味するのかが量刑のポイントだったと思うのですが，私の印象だと正直に言えば，弁護人の進め方が下手だったと思います。どっちに行きたいのか，いろんな証人の方を聞いていましたが，その証言をどの結論に持っていきたいのか，何のためにこの証人に質問しているのかというのが最後までつかみきれず，最後の最後に一部執行猶予を求めるというゴールに結びついたので，驚いてしまいました。弁護人の意見は我々の参考にならなかったので，独自で証拠を判断していったという感じでした。

司会者

冒頭陳述を聞いても，どこを目指しているのか見えづらかったということでしょうか。

７番

証拠調べがどの結論にいくのか，何のためにしているのか，やっている最中も，終わった後も分かりませんでした。

司会者

それでは，論告・弁論の話が出ましたので，論告・弁論について伺います。検察官や弁護人が証拠調べの後で締めくくりの主張をしたかと思いますが，評議する上で分かりやすかったでしょうか。量刑上のポイントに関する主張がなされていたでしょうか。４番の方にお聞きしますが，責任能力や量刑について評議をするのに，もう少し主張や説明をしてほしいようなことはありましたか。

４番

検察官の主張はすっと入ってきましたが，弁護人側の心神喪失の主張は入ってきませんでした。心神喪失は無理があるんじゃないかと思いました。

司会者

どうしてそう思ったのでしょうか。証拠調べの中では，精神科医の話があったと思うのですが，その精神科医の話と弁論が上手くかみ合わなかったということでしょうか。

４番

はい。弁護人の申請した医師の話も，心神喪失には及ばない，ということでしたので，証拠とかみ合っていませんでした。

司会者

１番の方，論告・弁論は分かりやすかったでしょうか。

１番

論告・弁論が記憶に全然ありません。論告や弁論を聞いたから，というのでなく，その前の評議とか証拠を調べた後に皆で考えて評議をするので，論告や弁論は，私の心の中ではあまり重視していませんでした。

司会者

１番の方の事件では求刑が懲役１０年でしたが，どうして１０年になるのか，検察官が説明されたと思うのですが，あまり響かなかったのでしょうか。

１番

それよりも評議の中での，皆で話し合ったことの方が残っています。

２番

検察官や弁護人の方の説明も理解できる部分もたくさんありましたが，部屋に戻ってからの皆との評議の方が，皆で話し合って深められるので，その方が参考になったというか，私もそういう記憶なんです。

司会者

２番の方，３番の方の事件では求刑が懲役１３年だったと思うのですが，どうしてこうなるのかという説明や他にも殺意とか正当防衛とか，それらが認められるのか，認められないのか，という主張があったと思うのですが，いかがでしたか。

３番

我々は一生に一度の話で，順番とかよく覚えていないのですが，審理の中の疑問点は休憩で戻ったときに裁判官の解説で理解できました。法廷で疑問があっても休廷の間に意見を言い合って理解して戻っていく感じでした。初めてのことなので，弁護人の主張が分かりやすかったのか，分かりにくかったのかについてはよく分かりませんでしたが，裁判官に聞いたら，分かりづらかった方だよ，と言われたので，そうかな，と思いました。

司会者

あまり印象に残っていないということですが，どなたか分かりやすかった，分かりづらかった，どちらでもいいのですが，印象に残っている方はいらっしゃいませんか。

７番

私は，印象に残っていると言えば残っています。検察官の求刑が懲役１４年だったのに対し，弁護側が一部執行猶予で，かなり開きがありました。どうして弁護側が軽い刑を求めているのかというところがはっきりしていなかったので，心に響かなかったという印象です。そのため，両方を考えから外して今まで見聞きした証拠について，客観的に我々で結論を出そう，と思いました。

５番

私の担当した事件では，検察官が，しっかりと，そのとおりだというのを出してきましたが，弁護人は無罪を主張していたので，その主張を出したいのであればもっと違う証拠を出したら，だったら，証人を出すとかもっともっと調べて証拠を持ってきてほしいな，プロなんだからもうちょっと仕事をしてほしいなと思いました。

８番

審理の最後で，放火の目的が争点だということになり，検察官，弁護人がそれぞれこの目的で犯罪を犯したと説明をしました。審理の過程で，それぞれ証拠から判断して，納得できる部分については理解できるとしてそのとおりとしましたが，証拠から判断するとそれはちょっと難しいんじゃないかという主張もあり，そのような主張をされることはあまりよくないのではないか，その辺りはきちんと判断されるような主張をされた方が，我々としても判断しやすくなるんじゃないかと思います。

司会者

証拠調べの中で心証を形成してきたけれども，検察官や弁護人が採りえない主張をしてくると，ちょっとよく分からない，というのがあったということでしょうか。

８番

そうです。

司会者

この辺りで，法曹関係者から質問などございませんか。

栗原検察官

裁判を山登りで例えた場合，検察官としては，初日に，審理に入る段階で示す冒頭陳述メモは，これからどんな山を登っていくかのロードマップの役割という位置付けです。また，論告というのは，８合目，９合目まできて，これから評議をして判決という頂上までたどっていただく際に，我々としては，皆さんに，もう一回１合目まで戻って，ここまでに何があったかというのを振り返っていただ

き，証拠をこう見ていただきたいです，というのが論告の位置付けだと考えています。みなさんの御意見を聴きますと，ロードマップとしての位置付けについては御理解いただけているのかと思います。

これまでのお話を聴いていて私が一番興味を持ったのは，今回８番の方の担当した放火の目的が争点となった事件です。検察官は，五つぐらい事実を挙げて，それが放火の目的だと主張していたのですが，実際に判決文を拝見させていただいて，２番目の事実はこうも見えるのだ，というのがよく分かりました。我々も一元的な見方にならないように，証拠を断面的に見て，ああも見える，こうも見えるということがないかどうか，検討しながら主張の構築をしていかなければならないなと感じました。

私からは，法律用語についてお伺いしたいと思います。正当防衛が問題になっていた場合，検察官は，正当防衛の急迫性について，冒頭陳述でも論告でも，国家機関の保護を求めるいとまがない，という形で置き換えて主張していると思いますが，冒頭陳述で聴いていてそれが抵抗感なく頭に入ってきたでしょうか。

司会者

３番の方はいかがでしょうか。

３番

正当防衛，というのはよく聞く言葉ですが，普段使っている言葉とは違うという分析でした。急迫不正については，裁判官からも，いくつかの例を挙げて説明を受けました。

司会者

次に証拠書類についてお聞きします。証拠調べの中で遺体の写った写真が出てきた事件があります。心理的負担はあったでしょうか。また，写真の色味を抑えたり加工をしていましたが，判断に何か支障はあったでしょうか。１番の方，いかがですか。

１番

見ることは覚悟していましたが，やはり見たときは衝撃を受けました。殴る蹴るの暴力を振るわれたから茶色くなっているのだと思っていたので，加工されていることに気付きませんでした。

７番

私の場合はイラストでした。一人写真を見たかったという人がいましたが，六十か所近く刺されたということだったので，それを写真でありのままに見せられると，却って傷口が重なって分かりにくかったかと思います。他には血のついたままのナイフや，色味を抑えられていましたが，血が付いた着衣の写真があり，判断できました。分かりやすかったと思います。

司会者

かなり血が付いていた着衣でしたが，心理的負担はどうでしたか。

７番

加工されていましたし，殺人事件に臨むというある程度の心構えはありましたので，そこはそんなに大変ではありませんでした。

司会者

２番の方，３番の方はどうですか。内臓が出ていたという表現が出てきたりしましたが，どうでしたでしょうか。

２番

模造刀と包丁の実物を見せていただきました。傷口の写真を見せていただいたので理解できたと思います。

３番

写真を示されるときには，「今から示します」と前置きをしてくださったので，心の準備ができました。

司会者

６番の方にお聞きしたいのですが，性犯罪ということもあって，被害者の方の証人尋問を行わなかったのですが，法廷で被告人が細かい態様に対して公訴事実と違うことを言い出したので，事実認定に当たって，やはり証人の話を聞きたかったということはありませんでしたか。

６番

その前に，あまりしゃべらない被告人だったので，もう少し被告人から聞きたいなとは思いました。検察官は非常に理路整然と流れを作っていたので，被害者の女性にオーバーラップしてしまい，被告人が何か言おうとしてはいましたが，あまり言おうとしないので，証人は聞かなくてもいいかなと感じていました。

司会者

検察官の示すのは調書ですので，検察官の主張が理路整然すぎるということはなかったですか。

６番

そういうことはありませんでした。

司会者

それでは次に，証人尋問，被告人質問について伺っていきます。皆さんの事件では精神科医や解剖医などの専門家証人の証人尋問が多かったようです。プレゼンテーション方式で，パワーポイントを使ったりして，説明していただき，その後に個別の質問だったと思いますが，内容は分かりやすかったでしょうか。４番の方はいかがでしたか。

４番

専門医の話は，パワーポイントを使ったりして，三，四十分していただいて，そこでベースができたので，その後の個別の尋問も分かりやすかったです。

司会者

７番の方の事件では，精神科医２人の尋問が行われましたが，その違いや内容について，いかがでしたか。

７番

医師のプレゼンテーション方式は，理路整然としていて，順を追って説明していただき，分かりやすかったと思います。最初からなるべく専門用語を避けて分かりやすい言葉に言い換えて話していただいたので，内容自体非常に分かりやすかったです。

司会者

２番の方，３番の方の事件では，正当防衛の他に責任能力が問題となっていて，解剖医や精神科医の尋問がありましたが，御理解いただけましたか。３番の方は，いかがでしたか。

３番

パワーポイントを使っていて分かりやすかったです。

司会者

２番の方は，いかがでしたか。

２番

理解できない言葉が出てきましたが，何となく分かりました。

司会者

解剖医の尋問で傷の状況や医学用語が使われていましたし，精神科医の説明で，意識狭縮のイメージはできましたか。

２番

はい。

司会者

５番の方の事件では，被告人質問で，事件に関係のないようなことが延々と続いていましたが，どう感じましたか。

５番

ＬＩＮＥの話が続いていて，時間が長くて，弁護人が何が言いたいのか目的が分かりにくかったです。殺人するような人が仕事を探さないでしょう，ということを言いたいのかな，二人の交流の深さを言いたいのかな，何を聞きたいのかな，と思いました。形にならないものを形にして見せようとする，それにしては間延びしすぎて，どこを集中してみればいいのか，集中力が続きませんでした。

司会者

検察官の方は，被告人がインターネットで自殺サイトや殺人のサイトを検索していたという閲覧履歴を証拠として出してきていましたね。

５番

はい，どちらも何を言いたいんだろう，と思いました。また，質問された被告人の答えも分かりにくかったです。

司会者

証人尋問，被告人質問について，法曹関係者から質問はありませんか。

内ヶ崎弁護士

弁護人の主張や証拠調べが分かりづらいということでしたが，どういう意図か分かりにくかった，ということがありましたら，御意見を賜りたいと思います。

７番

私の担当した事件は，親族殺人で被告人が当時未成年というものでした。客観的事実を積み上げていくと殺人なので重罪ですが，弁護人の方からすると，まず，自首をしていること，当時未成年であり更生可能性があること，生育環境が複雑であることなど，ある程度加味しなければならない３つのポイントがありました。この３つのポイントにしたがって証人に対する質問がされると思うのですが，どうしてこの証人なのか，この証人に何を聞きたいのか，証人に結びつく流れが見えなくて，聴いている側に全然伝わってこない。弁護側の論理の組立ての中で生きてこなかった，強調されるべきところが生きてこなかったという印象でした。

司会者

４番の方はいかがですか。

４番

被告人が発達障害ということで，弁護人は被告人とコミュニケーションが取れていないのだろうと思いました。弁護人は心神喪失ということを訴えていましたが，これまで証拠を見てきて，生い立ちや行動の態様からすると心神耗弱で，心神喪失までもっていけないのではないか，という印象でした。被告人本人が刑務所に入れてくれと言っていましたし，そう言っているのに心神喪失を訴えるのは難しいと感じました。

司会者

証拠から判断される事実関係からすると，主張が難しいという御感想や御印象を持ったということですね。先に進ませていただきます。

４．評議，判決についての感想や意見

司会者

続きまして，場面を変えて，評議や判決についてお伺いしたいんですけれども，特に評議について皆さん共通の部分としては，量刑のところの行為責任主義について裁判官から説明させてもらいました。要するに，量刑に関する基本的な考え方として，犯罪にふさわしい刑罰を決めるんですよ，とか，例えば，犯情とその他の情状に分かれるんですよ，犯情については，行為態様，結果，それから意思決定に対する非難の程度といって，一般情状についてはこんなものがありますよと説明させていただいて，さらにその枠がどうのこうのとか，公平性であるとか，量刑傾向を見てくださいねなどという話をさせていただいたんですけども，こうした点については，御理解いただけたでしょうか。

１番

被告人があまり反省している感じではなかったので，裁判官がいないところで，裁判員同士で話をすると，どうしても量刑を重くするような話になりがちだったのですが，客観的に説明をしていただいたことで，「ああ，あまりかっとなってはいけないんだな。」と冷静に判断ができたように思います。

司会者

私は第１刑事部なんですけども，第１刑事部ですと，そういった説明はだいたい１０分くらいしていて，評議の中でも何度も出てくるような形を取らせてもらっています。４番の方の御経験ですと，行為責任の話はどのような形でされていましたか。量刑を決めるに当たっては，こういうふうに考えましょうねというような話ですが。

４番
説明はありました。実際の今までの放火の事件についての統計を見せていただいて，参考にしてください，というふうに言われました。

司会者
そのあたりは一緒ということですかね。皆さん，御理解いただけましたか。最後に評決させてもらったのですが。

７番
私の事件の場合は，被告人が犯行時未成年ということで，更生の可能性があるということで心情的に味方したくなる捉え方と，やったことは重大な事件ですから，それに対する客観的な罰を与えようという見方と，どっちを取るかという点で幅のある事件でした。それをある程度のところに集約していく上で，グラフや説明が一つの足がかりになったのかなという気がします。

司会者
先ほども少し出たのですが，正当防衛や責任能力などについても評議の中で説明させていただいて,どのように判断していくかという話がされたと思いますが,そういった説明については御理解いただけましたでしょうか。

参加者
（うなずく）

司会者
大丈夫なようですね。最後に評決をして，判決に至るわけなんですけれども，最終的な結論を出す過程については，御納得いただけたのか，どこかに違和感があると感じられたか，いかがでしょうか。こんなふうにしてもらえたらよかったなあ，など何かありませんか。１日か２日ほど評議をしてから判決をしたり，もしかすると，もっと長かったりもすると思いますが，８番の方いかがですか。最終的な結論に至る過程についてです。

８番
非常に分かりやすかったというのが結論です。というのは，我々が担当した事件は，そもそも被告人の発言に信ぴょう性がないというところがあったので，客観的な証拠に基づいて審理をして，判断をするということだったので，我々の意見に基づいた判決文になっていましたし，量刑についても納得がいく形になっていたんじゃないかなというふうに思います。

司会者
少し付言させていただきますと，放火の目的の認定について，目的については

はっきりしないよね，という最終的な認定になったんですけれども，その理由について諸々判決に書いているわけなんです。この判決を見た司法修習生から，これは裁判官が考えたのか，それとも裁判員の方々が考えたのかという質問がありまして，裁判員の方々が考えたんですよ，と。要するに，証拠を見れば，ある程度見えてきてしまう，そして，そうしたところがそのまま判決に反映されているというところでした。判決を出す過程について，６番の方はいかがでしたか。

６番

納得はしましたが，満足というところまでは行きませんでした。

司会者

その，満足しなかったというのはどういうところでしょうか。

６番

私たちは素人なので，専門職の方々がちゃんとやってくださるということに対して，満足しました。

司会者

もう少し具体的に御説明いただけますか。

６番

知らないことばかりからスタートをして，自分の考えでは及ばないことについて，検察官や，弁護人や，裁判官が決めてくださったので，私は満足しました。

司会者

裁判官としては，裁判官の専門性と国民の皆様の健全な良識とのコラボレーションという形を意識しながら評議しているつもりなのですが，そういった観点についてはいかがですか。

６番

そうですね。

司会者

今の話は，そういうことなのかなと御伺いしたのですが。

６番

そうです。

司会者

きれいにまとめてしまいましたが。そのほかに，いかがでしょうか

１番

私は，裁判員をさせていただいて，一番感激をして，やりがいがあったなあと思ったのが，事実認定を細かく細かく行って，判決文を作るのも一つ一つ吟味をして行ったということなので，その後に家に帰ってからニュースを見たときに，「判決は，加藤裁判長がこういうふうに言った」と流れていたのですが，「違う，違う。私たちが全部吟味をして，一つ一つの言葉に対して，責任を持って並べたのが，あの判決文なんだ」っていうふうに，すごく思ったんですね。だから，受け身で，ただ単にお飾りで裁判員をしたのではなくて，被告人に対して，８年なら８年っていう判決を言い渡すに当たって，色々なことについてすごく細かく認定したので，その辺は，裁判長を始め，裁判官の方たちが上手にリードしてくれた結果，やりがいに通じたのではないかなと思いました。

司会者

リードと言われると面映ゆいところがあるのですが，毎回活発に御議論いただいているということが，判断や判決に生かされていると感じているところです。

そのほかに，いかがでしょうか。

３番

我々が担当した事件は，売られたけんかを買って，殺してしまったという事件だったので，評議の中で，私の心の中では，けんか両成敗という言葉があったり，逆に殺されたかもしれないということがずっと引っ掛かっていて，最終的にはどんなふうに量刑を決めるのかなと，もやもやしながら進んでいって，類似の事例の統計を見せてもらって，もやもやが取れたというか，分かりやすく決められるんだなと，少しほっとしたところがありました。

司会者

評議，判決についてはこの程度でよろしいでしょうか。また何かありましたら，御発言いただきたいと思います。

５．裁判員を務める上での負担感について

司会者

冒頭でもお話がありましたが，裁判員を務める上での負担感ということで，審理，評議における負担感のほかに，選任手続や裁判の日程の組み方であるとか，審理の進め方ですと，休廷時間が多すぎるとか，もう少し休廷時間を取ってもいいのではないかとか，色々御意見があるかと思います。

何でも結構ですので，裁判員を経験してみて，こういうところが負担だったとか，それほどでもなかったとか，御意見はいかがでしょうか。

８番
最初の方でも話をしましたが，事案が殺人や傷害ではなかったので，そうした事案を扱った方に比べると心理的な負担は少なかったのかなと思いますが，裁判の間はそれなりに緊張感がありましたし，時間的な拘束は，間違いなく負担にはなったと思っております。ですけれども，最後にこれから裁判員になられる方へのメッセージというところで申し上げますが，終わった感想としては，やってよかったなと思っています。

司会者
例えば，参加されるに当たって，職場との調整などはいかがでしたか。

８番
それは，結構大変でした。私は年度末が忙しい職場で，担当した裁判が２月にあったので，一部の上司と職場の人には話をしたのですが，それ以外の人にはなかなか言えずに，何をやっているんだろうという雰囲気になっていたとは思います。終わった後に報告をして，じゃあ大変だったねと言ってもらったので，それは致し方ないところなのかなと思います。

司会者
個別に御伺いしたいと思いますが，まず，１番の方は判決までに全体で８００分を超えています。５番の方も８００分を超えています。７番の方も８００分を超えています。経験された方の中では，かなり長い方なんです。その長さなどについては，いかがでしょうか。審理の中身についてでも結構です。

１番
予定よりは１日半くらい短くなったと思うので，負担感はなかったです。

司会者
評議の合計が６００分近くあるのですが。

１番
日程自体は短くなったと思いますので,あっという間に終わったという感じで,そんなに負担感はないです。

５番
こういう事件を扱うからこそ，評議とかですごくフレンドリーに話し掛けてもらって，私たちの気持ちを軽くして，逆に話をしやすいムードにしてもらったので，とても楽しく取り組めて，長いというふうには感じませんでした。ただ，こう言っては何ですが，もう少し弁護人の方が短く，的を射たことを言ってくれれ

ばいいのに，とそれだけですね。すごく話がしやすかったです。

司会者

５番の方も評議は６００分を切る程度でしたが，それでも審理よりは短いですよね。逆に２番の方，３番の方は審理よりも評議が長くなりました。その辺の配分はいかがでしたか。

２番

比べようがないので，最初から長いという実感がありませんでした。５番の方も言っていたように，こういう言い方は不謹慎かもしれませんが，楽しく取り組めて，最後の日には，「ああ，もう明日からはここに来られないんだ。」と後ろ髪を引かれるような思いがありました。

３番

私も同感で，裁判官の方々の雰囲気作りがすごく良くて，不謹慎で言ってはいけないかもしれませんが，楽しく，「裁判員ロス」のようになったのを記憶しています。

司会者

冒頭でも申し上げたように，１０年目を迎えるということで，これまで，審理や評議は何日ぐらいがいいのだろうかとか，選任手続期日から第１回公判までどれくらい空ければいいのだろうか，連日開廷した方がいいのか，それともインターバルを置いた方がいいのかとか，色々と工夫しながら，試行錯誤しながら裁判員裁判をやらせていただいてきています。その工夫についても，裁判員の方々から御意見を頂戴して取り組んできているわけなんですけれども，ここはこうした方が良かったというような御意見は，何かありませんか。例えば，もっと終わる時間を早めてほしいとか，早い時間から始めてほしいとか，何かありませんか。

７番

私の担当した事件は,実質７日間だったのですが,最初の週が月曜から木曜で,金曜が休みの日で，金曜は１日だけ職場に戻らなければならない，つまり，裁判モードに切り替わっている頭から，普通の仕事モードに戻らなければならない日が１日だけあるというスケジュールでした。そして，また翌週の月曜から水曜までで，水曜に判決宣告がありました。その金曜日をどう過ごすがというのが，普通の職場に戻り切れないというところで，皆が苦しんでいたというのがあると思います。これはもう，最初の５日間なら５日間，ぶっ続けで裁判モードで過ごさせてもらった方が，やる側としてはむしろやりやすかったのかなと思います。

また，私の場合は，職場が仙台市内で，朝会社に行って片付けをしてからでも間に合うという環境でしたし,金曜日は東京の本社の会議に出るだけだったので,仕事の調整がしやすかったのです。でも，ほかの方で，例えば，遠方から通った

方などは，スケジュールに御無理があったかもわかりません。そこは個別の事情なので調整はしにくいかもしれませんが，調整の余地がある気がします。

司会者

８番の方もうなずいていらっしゃいますが，やはりできるだけぶっ続けの方がよろしいですか。

８番

はい。ぶっ続けの方がいいですね。

司会者

例えば，審理が２週間になってしまうとして，それでもぶっ続けの方がいいですか。

８番

例えば，土日を挟んで，職場に出ないというのがいいのだと思います。切り替えが結構難しいので。

７番

守秘義務があるものですから，普通に職場に行って，今，裁判を抱えているということを何も話せないというのが，かなり辛いんです。なので，素に戻るという日はない方がいいです。

司会者

今，守秘義務の負担感ということが出ましたが，いかがでしょうか。皆さん，うなずかれてますよね。やはり，裁判員に選任されたこともあまり大っぴらにしてはいけないということもありますし，評議の秘密は洩らさないでくださいね，ということなどについて，それなりに負担感があるということでしょうか。

１番

裁判員に選ばれたことを言ってはいけないんでしたか。

司会者

いいえ，そういうことではありません。大っぴらにネットなどに載せたりということです。

１番

「やってきたんだよ」などという時です。

司会者

それは，終わってからということですね。

１番

はい。「裁判員をやってきたんだよ」ということを言った時に，「え，そんなこと言っていいの」などと言われて，「やったことは言っていいんだよ」と答えたりして，皆，腫れ物に触るような感じを持っている印象がしました。

司会者

そこは誤解があるところかもしれませんね。

７番

仙台地裁には刑事事件を扱う部は２つしかないのですよね。

司会者

はい。

７番

裁判員裁判の日程はホームページにアップされているので，私が裁判員を務めているということが職場に知られていると，ホームページを検索すればどの事件を担当しているかが分かるし，じゃあ傍聴に行ってやろうなどという者も何人かいましたから，ある程度そこはオープンになっていると言えば，オープンになっているんですよね。そこをどこまで個人として対応すればいいのか，難しい部分があります。

６．これから裁判員になられる方へのメッセージ

司会者

最後に裁判員になられる方へのメッセージをお願いいたします。

４番

務める上での負担感についても併せて述べたいと思います。私が担当した事件の被告人は，２０代の発達障害の男性だったので，生い立ちだったり，同居の母親との関係性とかも見て，私自身，男の子の母親なので，少し感情移入してしまって，辛くなったこともありました。ただ，私の場合は，判決までに二，三日空いたのですが，その空いたことによって気持ちをリセットすることができたということがありました。また，裁判所のメンタルサポートのチラシも頂いていて，どうしても辛くなったらそれを利用しようと考えていたので，その安心感もあったせいか，最後まで参加することができました。

これから裁判員になられる方へのメッセージですが，私は，裁判は長いという

イメージがある中で,実際はどのように進められていくのかすごく興味があって,今回機会を得て裁判に参加したんですけれども，その事件によって，相応の日数を要しないと，きちんとした判決にたどり着かないのだなと思いました。

また，子供にも，裁判はこういうふうに進めていくんだということを教えてあげられるようになりましたし,子供もニュースで裁判のシーンなどが出てくると,興味を持って私に聞いてくるようになりましたので，すごく良い経験になったと思います。あと，たまたま私は参加できる環境にあったので良かったのですが，仕事や家庭の事情で参加できない人も多いと思います。私も，もう１年前に選ばれていたら，辞退していたと思います。でも，得ることもすごく多かったので，事情が許せば，是非参加してみてほしいなと思います。

３番

仕事をされている方は，自分で業務を調整できる立場にないと無理だと思うんですね。私も，朝残業して，夜職場に戻って残業して，何とか乗り越えられたんですけど，そこまでしてでも経験してみたかったということがあります。そういった事情で辞退する方が多いんでしょうけど，結局，自分の意思で参加できないということもあるのかなと感じています。

先ほど，不謹慎ながら，楽しかったという表現をしたのですが，それは，とても有意義だった，すごく良い経験ができたという意味です。

また，そもそもの裁判員制度の趣旨というのは，先ほど裁判官から，コラボレーションという話がありましたが，刑が軽いという被害者側の意見とか，判決が定型的だという話があったかと思います。日本の裁判員制度をどういう方向にもっていくかという議論は，今日の話の中には出ていませんが，何とか，裁判員をやりたいと言っている人の意見ではなくて,あまり興味のない人を裁判員にして,そうした人の意見や考え方こそが裁判員制度に必要なのではないか，ということを考えたりしています。

２番

最初に連絡の封筒を頂いた時に，大それたものを頂いたというふうに思いました。第一，素人の，法律も裁判用語も何も理解できない者が，人を裁くということに参加していいものだろうか，という疑問を持ちました。また，最後までできるのだろうかという心配もある中で参加しました。でも，経験していく中で，私の結論としては，本当に真面目に取り組めば，誰でもできるということを一番に言いたいと思います。偶然にも選ばれた自分ですけれども，やってみて，再三，楽しくという表現を使って不謹慎かもしれませんが，真面目に関われば，誰でもできるんだということを声を大にして言いたいです。論告のところで，検察官の求刑１３年を見た時に，私情を入れたくなるような事件だったので，これは軽すぎるのではないかと思ったのですが，皆で話し合ったり，似たような事件の判決を引いたりする中で，１０年という結論を導いたことに納得ができました。裁判官の色々な助言のおかげもあったと思います。

１番

裁判官の方々は，仕事として裁判書を書かれているので，当然，一生懸命やってらっしゃるのだと思うんですが，裁判員の人たちにとっては，一生に一度のことなので，本当に皆で一生懸命考えるんです。やっぱり，色々と事実認定をしていく中で，素人感覚というか，普通の感覚というのは，とても大事なのではないかなと思います。被告人から見れば，判決書をもらって，自分の拘束される時間が決まったりするわけなんですが，そこに関わって，一つ一つ思いを込めて判決文を書いたというのは，とても良い仕事だと思いますし，機会があって，事情が許せば，皆さんにも是非やってもらいたいと思います。

５番

通知が来た時から，裁判員をやろうと思っていたんですが，周りに聞いたら，「私はやらない」「俺はやらない」と言われて，なぜやらないんだろうと思っていました。私は，殺人未遂事件を担当したんですけれども，最初に裁判所に呼ばれた時から，例えば，ショックを受けたりしないようにということで，私にとってはパーフェクトなくらい気を遣ってくださいました。私だけが気持ちが楽だったのかと思って，今日の話を聞いていたら，殺人事件を担当した方も，写真のトーンを落としてもらっていたり，遺体に関する証拠を見る時に配慮があったりしたと知りました。経験していない人は，そういう配慮などがないと思っているから，リアルに目の当たりにすると思って，脳裏に焼き付いてしまうとか，嫌なイメージが付いてしまうと思っている人がほとんどだと思うんですけれど，殺人事件などを担当した方でも良い経験だったと言えているのは，全てについて配慮がなされているということだと思います。また，裁判官の方々も，毎回１階まで御見送りしてくださって，私たちがエレベーターを利用しているのに，階段を降りて挨拶をしてくださったりして，本当にすごく良い方々と良い経験ができたと思っています。そういう配慮がなされていることを可能な限りアピールしていけばいいんじゃないかなと思いますし，すごく良い経験になったので，皆もあまり躊躇せずにやってほしいなと思います。

司会者

配慮の点だけ補足させていただきますと，裁判所だけでなく検察官も弁護人も皆が配慮を行っています。例えば関係人多数の場合，裁判員の方と接触しないよう法曹三者全体で力を合わせて行っています。

６番

今回は非常にいい機会を与えていただき，自分は知らないことばかりだったのでとても感謝しています。これからやる人は自分の見分を広めるために是非ともやっていただきたいと思いました。ありがとうございました。

７番

みなさん楽しかったとおっしゃっているとおり，私もとても楽しい期間を過ごさせていただきましたという気持ちが正直なところです。気負っている方がいれば，それほど難しいものではない，逆に参加していただければ楽しい思いをするかもしれないので，なるべく積極的に参加していただければいいなと思います。私自身人を裁くということに否定的であったため，最初はなるべく参加したくないと思っていましたが，対象者になった以上は正当な理由もなく断ることもできないと思い，運を天に任せるつもりで来てみたら当たってしまったという感じですが，非常に有意義な制度だと思っています。ですから個人の方もそうですが，職場の方に対しても裁判員制度に関して理解を深めるよう広めていただいて，参加しやすいよう制度なり雰囲気を作っていただくような協力はなお必要なのかなと思います。私の例で言えば私が選任手続に選ばれた３人目だったみたいです。前の２人がいたので急遽就業規則を変えて，裁判員休暇などそういう制度を慌てて整えたというのが事実だったようです。実際に従事したのは私が初めてだったようです。ただ，その期間中は無給になるので，できれば有給休暇は取った方がいいよというような助言はされました。そういう意味ではもっと周りの環境を整えていく必要があるのかなとは思います。

８番

この裁判員裁判が終わった後，裁判員制度に対する意識調査のようなものがニュースでやっていて，８５パーセントの方がやりたくないと言っているが，やった方の９５パーセントがやって良かったと言っているようです。これはまさに自分の気持ちのパーセンテージを表しているという気持ちがしています。この数値を見ただけでもこの制度というのは有意義なのではないかと感じています。私個人としてはなぜこれが有意義だったと思うかといいますと，日頃法律に触れることがないため，我々の身の周りには法律があるということを感じることができたということと，被告の方がいて被告の方の人生に思いを馳せることができたと同時に自分の人生も振り返ることができたと感じています。これが広まっていけば，ひいては犯罪抑止力に繋がっていくのではないかと感じているところです。一方で先ほどの話もありましたが，裁判員裁判に参加したことを話すと，それは言わない方がいいという方も中にはいらっしゃいます。そういう方は仙台はそれほど広くないから，どこで誰と繋がっているか分からないからということをおっしゃるのですが，もし，その方が裁判員を経験してみたらその人もきっとやって良かったと感じると思うので，我々経験者が広報活動ではないですけれど，参加してみたら良かったと思うようになると言っていければいいと思います。

最後に，これから裁判員になられる方へのメッセージからは離れてしまいますが，我々が裁判官と一緒に行動することが多いため，そこがチームになっているように感じてしまいますが，弁護士の方と検察官の方も一緒になって裁判を作られている。法律の素人なので感覚的なものですが，検察官が量刑の一番高いところを決めて，弁護人が量刑の一番低いところを決めて，その間を我々が判断する

ような印象を裁判員裁判では受けました。そうでなくて，的の中や的外れというような話もありましたが,本当はそんなに離れないのではないかと感じています。そのような制度になっていけば皆で量刑を組んでいけるのではないかと終わってから感じています。

司会者

ありがとうございました。先ほどから感銘を受けるお話や本質的なところを捉えるお話が続き，本当にありがたいなと感じているところです。それで裁判員制度について,本当に有意義な制度だと感じています。始まってまだ１０年であり，まだまだ良くなっていく制度であり，皆様と一緒に育てていければいいと感じています。色々と良いお話を聞かせていただきありがとうございました。

７．法曹関係者からの感想

司会者

それでは，法曹関係者の皆様に裁判員経験者の方々のお話をお聴きして，どのような御感想をお持ちになったかを伺いたいと思います。

江口裁判官

今日は貴重なお話をいただき，どうもありがとうございました。検察官と弁護人それぞれどちらが分かりやすかったのかという話が冒頭からありましたが，お話を伺うと，検察官は分かりやすいけれど，弁護人は分かりづらかったという御意見が多かったように思います。検察官が分かりやすければ，それに応じて主張する弁護人の主張も分かりやすいはずだと思うのですが，皆様が分かりにくいと思われたところは,どの点にあるのかを教えていただければと思います。例えば，検察官が言っていることは納得がいくのだけれども，弁護人が言っていることは納得がいかないという意味でおっしゃっているのか，検察官が言っていることの意味は分かるが,弁護人が言っていることの意味が分からないということなのか。もし，前者の方であれば，認定の問題なので，弁護人の言っているようには思わないということで，それはみなさんの御判断ということで問題がないようにも思います。そうではなくて，後者の方，弁護人が言っていることの意味が分からないということであれば，それは弁護人と検察官の主張がかみ合っているのかという問題になるように思います。弁護人の言っていることにシンパシーを感じないということなのか，５番の方がおっしゃっていましたがそもそも弁護人の言っている事が分からないということなのか，御意見のある方がいらっしゃればお願いします。

司会者

これについては，本日も弁護士の方がいらっしゃるので御意見いただければ助かるのですが。分からないといってもレベルがあると思うのですが。

７番

繰り返しになりますが，私の担当した事件で言うと，弁護人の方の主張するポイントが絞り切れていませんでした。先ほど申し上げたとおり一部執行猶予まで持っていきたいというのであれば，多分ポイントとしては自首をしているのと，生育環境が複雑で，被害者の方にもそういう生育環境にしてしまったという一定程度の責任というのがあったなど，そういうポイントを検察官の主張に対して論理的に否定するなり情状に訴えるなり，攻め方というか論理の展開の仕方があったと思うのですが，それが明確ではありませんでした。結局どこをポイントとして我々に訴えかけたかったのか全然見えなかったのが弁護人の方の弱かった部分なのかなと思います。

司会者

おそらく５番の方も同じような御感想だと思いますが，先ほどふわふわという言葉が出たのですが，ポツポツと主張が出るのですが，それが何に繋がっているか説明がないというところですよね。要するにシンパシーが抱けないということではなく，そもそも主張と立証との繋がりが分からないというところかと思います。

江口裁判官

例えば，検察官の分かりやすい冒頭陳述があったとして，検察官は冒頭陳述の第３の１でこういう風に主張したんだけれど，弁護人としては，その事実はないと思っています，とか，事実としてはそのとおりですが，その評価が違うと思っています，というように，もっと明確にかみ合わせた主張をした方が良かったというようなイメージになるのでしょうか。

１番

そんな感じだと思います。

３番

弁護人の方が苦しい状況で，苦し紛れに言っているということなのか，若しくはこれをこの後の弁護の戦略として何かに繋がっていくのかと悩みながら聴いていた印象があります。結果，主張が苦しかったのかなと思いました。

江口裁判官

それは恐らく証拠調べを聞いているときに，弁護人が何を名宛にその活動をしているのかのイメージがつかめないので，心証が掴めない，もっと前の段階で何をしたいのかはっきりしてほしい，ということでしょうか。

１番及び３番
（うなずく）

江口裁判官
どうもありがとうございました。

内ケ崎弁護士
分かりやすいかどうかという点で，検察官と弁護人の方からそれぞれ冒頭陳述のところで紙が１枚ずつ位出て，まとめの論告弁論のところでまた紙が１枚ずつ位出てくると思いますが，それについて，弁護人の方が内容が分かりづらいとか文字の量が多い少ないとか，分かりやすさという点で双方の文書についての感想をいただければと思います。

司会者
だいぶ検察官と弁護人で書面のスタイルが違ったりもしますが，スタイルの違いというわけではないんですかね。

７番
分かりやすい分かりやすくないということであれば，両方とも分かりやすかったです。ぱっと見て内容は理解できました。プレゼンテーションの技術で言うと検察官の方が色々なところに色を付けていたり，流れを縦に組み立てていたりしていて，説得力のあるプレゼンにしていたのは検察官の方の書面でした。内容的には弁護人の方がどこをポイントにしていてどこを強調したいのか，どこを争点にして判断してほしいのかというところが絞り切れていない点で，説得力の薄い書面になってしまっていました。

司会者
裁判官は裁判員とともに判断者に徹したいと考えています。審理を分かりやすくやっていただければ評議の方も判断がしやすいので，良い審理を行うためにたくさん御意見をお願いします。

３番
我々が担当した事件では，被告人と弁護人がしっかり話ができていないような印象がありました。記憶がないという被告人の主張があり，一部罪を認めるような主張もある一方で，弁護人は無罪を主張しており，被告人と弁護人が一枚岩になっていないような印象がありました。逆にその印象で真実が見えてきたというところもありました。

８番

我々が担当していた事件も同じで，被告人があまり話さない人で，弁護人の方が意図を酌んで被告人がどのように考えているのかということを説明していただくと，より動機の部分に思いを馳せることができたのかなと感じています。

司会者

合理的な疑いというのがあるじゃないですか。やはり疑いは合理的でなければならないところ，ポツポツポツといろんな要素をちりばめるんですが，これがどういう根拠でこのような疑いが言えるんだと説明がないまま次から次へ主張がある。それだと立証が響かないということはあるのだと思います。

８．報道機関からの質問

刑事訟廷管理官

それでは，本編の方はここで終了いたしまして，報道機関の皆さんから質問をしていただきます。質問の際には社名をお願いします。

読売新聞社

本日はありがとうございました。何点か質問させていただきますが，裁判員をしていく中で，遺族の方のお話を聞くという機会も経験されたと思いますが，その時に辛くなったり，遺族の意見に傾いてしまいがちだったというようなことはなかったのでしょうか。

司会者

遺族の方が出てきたのは１番の方と７番の方ですね。

７番

私の場合は親族殺人ですので，少し複雑ですね。

司会者

１番の方も複雑ですね。こちらも親族と言えば親族。内縁関係ですね。

１番

被告は否定していましたが，最後の方でお姉さんの話が聞けて，被害者の方にこんな背景があったんだと分かって。すごく辛かったですが，なかなか聞けないことを聞けたんだなと思いました。

司会者

感情移入はしてしまいましたか。

１番
　裁判員皆が感情移入していました。特に女性の裁判員３人は感情移入していました。

読売新聞社
　その感情移入を評議の際にどのように克服したり気持ちを押さえたりしましたか。

１番
　こんな事を言っていいのか分かりませんが，感情移入した気持ちを特にコントロールしませんでしたし，ありのまま，感じたままで審理に望み，特に裁判員として冷静な判断をしなければとは思っていませんでした。

読売新聞社
　そのままで審理を行えるような環境，雰囲気だったということでしょうか。

１番
　感情移入したことで冷静な判断ができなかったとか，公平な判断ができなかったということはありませんでした。

司会者
　７番の方はどうですか。出てきた親族は被害者の妻，子供であり，被告人の母親，兄弟と内容が複雑でしたけれども。

７番
　被害者の方は亡くなってしまったので，あとは当時未成年だった被告人の更生を促したいという意味で言うと，残された方は全員目標は一致していたと思いますので，法廷に出る際は方向性は一致していたと思います。ただ，被害者の会社の同僚の方が証人で立たれた時に，直接息子に対しては不器用なのであまり表現できなかったけれども，非常に細かい心遣いをしていたし，仕事ぶりも真面目だったということに加え，私自身が被害者の方と同じ年齢なものですから，被害者に対する感情移入は少しありました。被害者の方が最後に居間で見ていたＤＶＤについて，私も買っていて今も持っています。そういう意味では感情移入はあります。ただし，それが客観的な判断に影響を与えたかというとそれは別の問題でしたが，事件を身近なものとして受け止めることには繋がったかなと思います。

読売新聞社
　ありがとうございました。

河北新報社

今日は色々と聞かせていただいてありがとうございました。３番の方に伺いたいのですが，量刑の時の話だと思うのですが，最初にけんか両成敗や，逆に殺されていたかもしれない，という言葉が心に残って，どういう量刑にしたらいいのか，懲役何年にしたらいいのか分からない，といった話があった中で量刑分布を見て，もやもやしたものが晴れた，ほっとしたという話があったと思いますが，その辺りの感情の推移を詳しくお聞かせください。

３番

話は二つありまして，評議の中の話で，やってしまったことを裁判で決めているのだということ，それが法律だという話が出てもやもやが取れ始めました。それから，実際に数値としてデジタルで決めていくという過程が途中で見えなかったのですが，最後の方に量刑分布という形で数字が出てきたので，その時に判断しやすいなと思いました。量刑分布を見ただけで一気に雲が晴れたわけではないです。

河北新報社

量刑分布がある中で，自分の感覚をどのように取り入れ，どのような事を心がけましたか。

３番

分布は過去にどのように裁かれたというのが参考になった記憶があります。

河北新報社

７番の方にお聞きしたいのですが，弁護人の方の主張がよく分からなかったというお話だったと思います。最終弁論で弁護人の主張として一部執行猶予付きというのが出てきて驚いたということでしたが，振り返ってみて，最初から最終弁論で弁護人が主張していた内容を聞いていれば，法廷の中でもっと理解できたのではないかということはありますか。分かりやすさとしては，最初から結論ありきで進めた方がゴールが見えやすかったのかという気もするのですが，いかがでしょうか。

７番

実は一部執行猶予という言葉が初めて出てきたのは論告求刑のところで，我々の評議の際には一部執行猶予という言葉の説明から入らなければいけませんでした。それを目指すのであれば最初に説明していただきたかったというのはあるかもしれません。ただ，それ以前に弁護人がどこにポイントを置いて，どちらの論理展開をしたいのかがはっきりしなかったので，仮に最初から一部執行猶予という言葉があったとしても変わらなかったなと思います。

司会者

そもそも一部執行猶予という制度があるんですが，そこには要件があるわけです。しかし，全く要件にそぐわない事案にも関わらず一部執行猶予というふうに出てきたので皆さんポカンとしてしまった。一番最後にそのような話が出てきたけれど，誰も用意しておらず，そもそもそれに沿った立証をしていないという事案でした。

７番

一部執行猶予の定義から外れた使い方ですね。実刑と執行猶予の中を取って一部執行猶予という出し方をしてこられたので，それもまた違うのではないかということもありましたし，そこから説明から言葉の解釈，定義からスタートしなければいけなかったというところはありました。

最後に一言よろしいでしょうか。全て終わった後の話です。自分が担当した事件について，公判中は情報をシャットアウトしようとして新聞もテレビも見ていなったし，何も情報を入れないで客観的に判断しようとしていました。終わった後で自分が担当した事件がどのように取り上げられているのだろうと新聞やネットニュースに目を通してみたんですが，今回の事件は，被害者が生育環境が非常に特殊で，いわゆる面前ＤＶを受けており，最終的には面前ＤＶの影響が認められるかどうかということが取り上げられていました。そして結論からすると裁判所は面前ＤＶの影響を認めなかった，という報道をされていた新聞社がありました。その新聞社は全国紙でも記事を取り上げており，ネットニュースにもその記事が流れていますので，その論調に対する一般の方のコメントも入ってきます。そこでは，裁判所は非常に理解が足りないという意見が大勢を占めるわけですが，そこで思いがけないカウンターパンチをくらったような印象を受けました。当然我々は色んなことについて意見を出し合う中で，それを集約して出した結論に対して誇りも持っていますし，自信も持っていました。しかし，そういう切り口からだけ捉えられるとちょっと違う印象を受けられかねないという部分はあります。我々は本職ではないものですから，そういった大勢の意見が出ることに用意も心構えもなかったので，ちょっとそこは後になってしんどかったなということはありました。そういった一面もあるということは認識しておいていただきたいと思います。

刑事訟廷管理官

それでは，時間も参りましたので，今日の裁判員経験者の意見交換会は，これで終了とさせていただきます。

参加者の皆様方には，たくさんの貴重な御意見を頂きましたことについて，あらためて御礼を申し上げたいと思います。本日はありがとうございました。

以　上